

## 特集 | 設備設計の課題と未来

建築設備技術者協会・日本設備設計事務所協会＝「建築設備士を表舞台に」

「グリーン革命時代、設備エンジニアの「読み」が鍵」科学応用技術研究所

「意匠設計者と対等に現場監理、設計料は譲らず主張」シード設計社

「敷地・建築・生活に無理のない、バウビオロジー住宅」環境工作室

「計画から運営まで、設備の最前線目指し世界に進出」日建設計

「空調システムは一人に一つ。快適・省エネオフィス」日本設計

「設備のブラックボックスを探る」鈴木悠子

「フレキシブルなルールを設定、設備を意匠で解決」宗本晋作

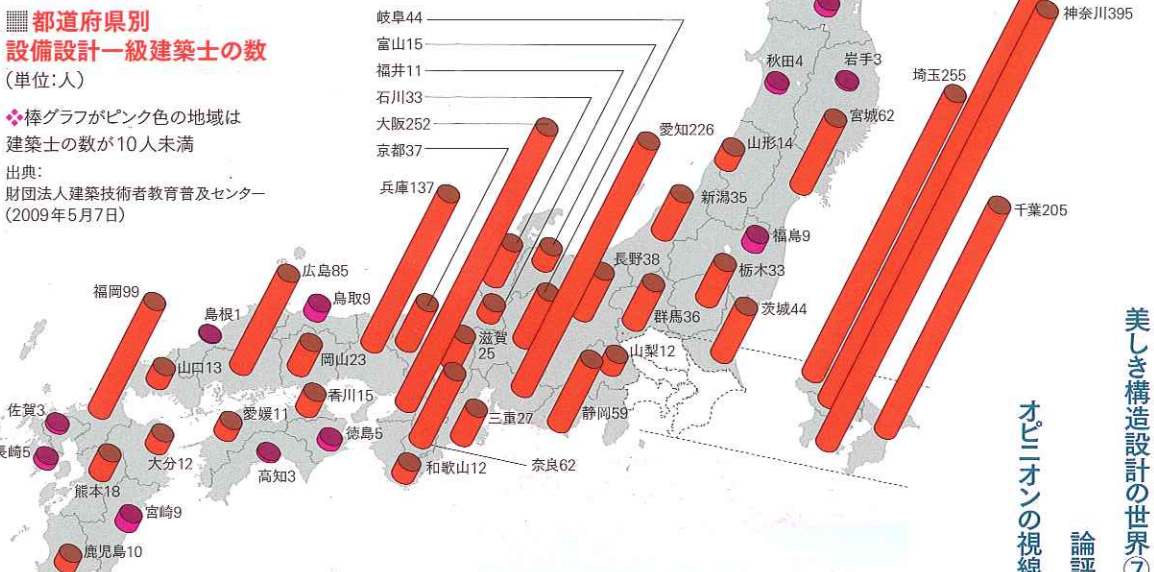
緊急調査＝「一級建築士ありきの法改正で、  
設備設計事務所は絶滅!？」

日本の建築家が海外で活動の場を広げることが若い建築家の励みになるように、建築設備においても、インターナショナルの視座に立ち、質の向上に努めていけば、設備を志す若者も増えるのではないのでしょうか(高間三郎)。設備設計料を値切る建築事務所とは仕事をしない。設計料の適正価格を算出するソフトを開発し、自信を持って設計料を明示する(鶴澄)。

■ 都道府県別  
設備設計一級建築士の数  
(単位:人)

◆ 棒グラフがピンク色の地域は  
建築士の数が10人未満

出典:  
財団法人建築技術者教育普及センター  
(2009年5月7日)



布野修司の現代建築家批評  
美しき構造設計の世界⑦  
渡辺豊和篇「建築ポストモダニズムの旗手」  
齋藤公男「シドニーオペラハウス」

論評  
オビオンの視線  
装置系としての住まいの標準化を――上野千鶴子  
「物質的なもの」にとらわれない  
建築写真を撮りたい――市川かおり



地域の話題  
芦原義信  
設計の  
武蔵美4号棟  
復活

Close Line |  
大型事業は  
全面見直し

――河村たかし

徳山ダム建設の総事業費は  
890億円。水余りの現況に市  
税を投入するのは自殺行為、  
事業の撤退を申し出ました。

